

令和 6 年度園評価書

園番号44園名駒越こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

| 1教育・保育目標 | 2重点目標      | 評価指標                                | 園説明                                                                                                 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から                                                                       | 改善策（来年度の具体的な取組目標等）                                                                        |
|----------|------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 心も体も元気な子 | のびのびと自分らしく | 子ども達は、実体験を通して試したり考えたりしている           | 様々な素材を用意したこと、保育者の声掛け（一人一人に合わせた、大人が誘導するような声掛けをしない、必要な声掛けと不必要な声掛け）や待つことを意識したことで子ども達が自ら考える姿が見られるようになった | A    | A     | ・小学校も同じだと感じた。教師の声掛けが多いことが反省となっており、どうしても喋りすぎてしまうため、子ども達に指示が通るように言葉を吟味することが求められている | ・どこまで見守るのか、どこまで子ども達に任せるのか等、職員間の連携を大切にし共通のかかわりができるようにする<br>・保育教諭と子どもが振り返りのできるドキュメンテーションの活用 |
|          |            | 子ども達は自分や友達の良さを知り、感じたことを言葉や仕草で表現している | 結果ではなく一人一人の思いや過程を認めること、自分の思いを表現できる場の設定を続けたことで自分なりに言葉で気持ちを伝えたり、普段の何気ない会話の中でも自信を持って表現できている            | A    | A     | ・園説明を聞き、小学1年生は0からのスタートではないことを再確認した。こども園での育ちを引き継げるようにしていきたいと感じた                   | ・保育者の当たり前を見直し、子どものありのままの姿を受け止める<br>・子どもの発想やつぶやきを肯定的に認め一緒に実現させる                            |
|          |            | 子ども達は基本的な生活習慣を身につけ、自分で決めて自ら行動をしている  | 一人一人に合わせた（年齢だけでなく理解度にも）関わりを職員全員に周知をすることで、子ども達がそれぞれのペースで行動している<br>生活のルーティンは理解してできている子が多い             | B    | A     |                                                                                  | ・子ども達一人一人のペースに合わせ、見守りとサポートの共有を職員間で行う<br>・生活習慣（養護）が年間計画に明記され、保育者が意識する                      |

II 各領域に関わること

| 大項目             | 中項目                        | 評価指標                                                                                   | 園説明                                                                                                                                                         | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から                                                                                                       | 改善策（来年度の具体的な取組目標等）                                                                                   |
|-----------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 職員はこども園が安心できる場としての環境を整え、子ども達一人一人の発達や経験を考慮し園生活の楽しさが味わえるよう援助する                           | 2週間ごとの話し合いで年齢ごとのねらいに合わせた教育保育の見通しと、発達と年齢に合わせた環境と玩具の提供をしたことで、子ども達の興味に合わせた環境ができた                                                                               | A    | A     | ・保育教諭の皆さんが子ども達に丁寧に関わっていることがわかる<br><br>・園でもICTを使い始めたところだと聞いたが、家庭との連携ではICTをうまく使うようにと思う                             | ・養護の大切さを見直し、子ども達一人一人を尊重する姿勢をもつ<br>・「明日も園に来たい」と思える環境を作る<br>・子ども達のありのままを認める保育者となる                      |
|                 | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮  | 職員は家庭と連携し、生活リズムや体調、情緒の状態等を把握し一人ひとりに合った対応をする                                            | 職員全員で肯定的な関わりをすることで子ども達の気持ちが安定している<br>子ども達の一日を意識し、家庭や早寝番での引継ぎを丁寧に一人一人に合わせた対応ができた                                                                             | B    | A     |                                                                                                                  | ・子ども一人一人の理解と職員間の共有をし対応をしていくために、子どもについて語りあう<br>・保護者とコミュニケーションを取りながら子ども達の情報共有や、保護者の困っていることに寄り添い共に考えていく |
|                 | (3)環境を通して行う教育及び保育          | 職員は子ども達一人一人の「やりたい」や「好き」を一緒に見つけ、その子に合わせた関わりをしている                                        | 子どもの興味をつぶやきからキャッチし遊びを広げていく工夫をしたり、一人一人の遊びを年齢発達に合わせ無理なく全体の遊びに広げていったりした事で子ども達の「やりたい」「楽しかった」の声が増えた                                                              | A    | A     |                                                                                                                  | ・遊びの継続ができる環境の工夫をする<br>・保育者が準備をするだけでなく、子どもと一緒に準備をしたり子ども自身が準備をしたりできる環境を作る<br>・保育者が柔軟に教育保育を考える          |
| 2安全管理・指導        | (1)事故防止・防災                 | 職員は安全管理への意識を高くもち、園内外の点検と改善を行うとともに、子ども達が自身で危険回避ができる関わりをしている                             | 点検時に気づいたら後回しにせず、すぐに改善するようにしたことで危険を回避することができた<br>子ども達に「なぜ危険なのか」を伝えていったことで、子ども達自身が危険に気付いたり、なぜ危険なのかを理解する力がついてきている                                              | B    | A     | ・学校では不審者が来た場合は「戦わないでください」と指導されているので、園でも参考にしたい                                                                    | ・怪我の多い子と怪我が多い場を捉え、改善をしたり教育保育を考えたりする<br>・減災教育を受け、新たな避難の方法を構築する                                        |
| 3保健管理・指導        | (1)健康教育の充実                 | 職員は子ども達が基本的な生活習慣が身につくよう関りや環境の工夫をし、家庭にも連携がとれるよう工夫をしている                                  | 朝夕、保護者と子ども達の様子の伝え合いを大切にし感染予防に心掛け、家庭との連携を意識して保健だよりや食育だよりを発行した<br>生活習慣については子ども達にわかりやすいように可視化したり繰り返し伝える等、日々の積み重ねで身についている                                       | B    | A     | ・友達が支援児を助けたりする姿はあるのか？「これが嫌なことだね」「こうしたいいいんじゃない？」などの声掛けは聞こえて来ていることを伝える                                             | ・日々の生活の中で一つ一つ丁寧に繰り返し伝え、見守っていく<br>・保育計画に位置づける<br>・家庭との連携を丁寧にしていく                                      |
| 4特別支援教育・保育      | (1)支援体制づくりの推進              | 計画的な支援児会議と毎月のケース報告を行う中で、より良い支援ができるようにする。また、全職員に周知し園全体で同じ対応ができるようにする                    | 各クラスのケースを毎月の会議で報告することで全職員で、同じ対応をしていく意識を高く持つことができた<br>うみのこ自主研修を行い専門の方からの指導を受けることで、より良い支援ができるよう学びが深まった                                                        | B    | A     | ・学校でもシフトがあったり、職員の時間的なことで職員への周知が難しいことがあげられる。現在、職員一人1台クロムブックを持っているので、そのチャット機能を利用し、連絡をしている。コードモンの利用があるのなら使えるのではないか  | ・担当者だけでなく職員全員で支援する意識を向上させる<br>・ケース検討の周知<br>・うみのこ自主研修の継続                                              |
| 5組織運営           | (1)組織体制の充実                 | 職員一人一人が自分の役割に責任をもち、情報共有と連携をはかり組織として協力し合いながら運営を進めている                                    | 分掌担当が責任をもち園運営ができている<br>毎月の会議で分掌の進捗状況を報告することで何をしているかがわかるようになっていく                                                                                             | B    | B     |                                                                                                                  | ・会議内容の伝達周知と協力体制の構築<br>・分掌の役割改善と協力体制の構築                                                               |
| 6研 修            | (1)研修体制の充実                 | 研修主任を中心に公開保育と園内研修を行い、研修テーマに添った学びを職員間で深めている                                             | 公開保育での学びが自身の教育保育の振り返りになっている<br>温かい雰囲気園内研修だったので意見が言いやすく、話し合いの視点を明確化したことで誰もがわかりやすかった<br>保健所や栄養士・外部講師の指導があり、職員の学びが多くなった                                        | A    | A     |                                                                                                                  | ・公開保育その後について話し合い、学ぶ<br>・事前事後研修参加者の工夫<br>・参加したい園内研修を行う                                                |
| 7教育・保育環境整備      | (1)教育・保育環境の充実              | 職員は、室内・園庭・忠霊塔公園それぞれのメリット・デメリットを考慮し、遊び場として活用していく<br>職員は、子ども達が自由に動かせ見立てやすい素材の教材研究を行っている  | 自由に動かせ見立てやすい素材を活用したことで、子ども達の見立てる力がついてきている<br>遊ぶ場に合わせた物・数・大きさなど考え、子ども達に経験させたい遊びを考えたり選んだりした                                                                   | B    | A     | ・コードモンの配信になるときに「お子さんが写真に写っていないときには、この時何してた？と、話をしてみてくださいね」と伝えていただいたので、子ども達と画面を見ながらその時の話をしている、園での様子がよくわかってよいと感じている | ・教材研究の強化<br>・戸外遊びの保障をした教育保育計画の立案<br>・公園と園庭の活用の工夫                                                     |
| 8家庭との連携・協力      | (1)家庭教育への支援機能の充実           | 園は、お便りや毎日の保育を伝えるボードへの写真活用と各行事への参加を通して、結果ではなく過程を大切に子どもの心と姿、保育実践を発信し、共に子育てを楽しむ           | 園だよりは教育保育目標、重点目標に合わせた園の教育保育が子ども達の姿から伝わるよう、工夫して発行した<br>クラスだよりは担当がその月のねらいに合った子ども達の姿を写真で載せ、子ども達の思いや考えている様子と保育実践が伝わる工夫をし発行した<br>毎日のボードや行事でのドキュメンテーションでも同様に作成をした | B    | A     |                                                                                                                  | ・園の教育保育目標と重点目標に合わせた子どもの姿の配信を行う<br>・専門機関と連携をし、家庭と子どもの成長を支える                                           |
| 9近隣の学校との連携      | (1)近隣の学校との連携の推進            | 園は、休み時間散歩や学校見学で交流を図り、校舎や校庭、小学生とのふれあいを通し小学校に親しみを感じ、不安なく就学できるようにする                       | 清水駒越小学校との交流（150周年記念運動会への練習と当日参加、秋祭り、休み時間散歩）が回数を重ねるごとに深まり、親しみのある場となっている<br>職員が小中学校の研修会に参加し、四中学区の子どもの姿や小中一貫教育について学んだ                                          | A    | A     |                                                                                                                  | ・清水駒越小学校と休み時間散歩や忠霊塔公園での交流<br>・清水第四中学区の研修会への職員参加                                                      |
| 10地域との連携        | (1)信頼される園づくりの推進            | 園は各地域施設へ地域版園便りを配布し、こども園を知ってもらう機会と子どもの魅力を理解してもらうことにつなげる<br>園は地域資源を活用し、子ども達に駒越地区のことを伝えたい | 地域だよりを発行し子ども達が各事業所へ届けることで交流としている<br>各事業所の都合もあるが、より交流をしていきたい<br>地域の特産物の栽培や地域の地踊りでの交流、駒越まつりや地域の防災訓練への参加をした                                                    | B    | A     | ・いちご音頭は10年ぶりの復活で、地域の方も喜んでいて聞いている。今後も続けてもらえるとういのではないか                                                             | ・地域行事への参加と特産物や地域の人との交流<br>・社会福祉事業団との交流                                                               |